

西ジャワ内陸部における食生活のアンケート調査
鹿児島県立短大 ○小住フミ子 岩切成郎

〔目的〕 一般にインドネシア料理は辛く、ココナツ油を使用するといわれている。西ジャワ内陸地方の比較的経済力に恵まれた人々の食事の概要を知り、食文化と健康に対する意識調査を行った。

〔方法〕 都市部公務員及び学生、並びに会社員で、アンケート用紙を理解し、協力してもらえる人、並びに農村部カンポン（集落）での少数の人からの聞き取り調査を行った。調査の為の用紙は100部準備した。調査時期は1993年8月末。回収率92% 有効回答率84% また日本との比較のため、本学学生63名のアンケート調査を行った。回収率98% で有効回答率97% である。

〔結果〕 都市部では餅菓子を始め甘い澱粉質の食品が多い中で、間食を毎日1回または2～3回食べる女性は72% で、殆ど食べない男性50% を大きく上回っていた。またココナツ油を調理に週3～4回使う人が多く、辛い香辛料を使った食事があまり好きでない人も見られた。また蛋白源として、卵は2～3日に1回の人が多く、食材料の購入も多い。川えびや淡水魚も食べられ、果物がよく摂取されていた。食品保存の方法は殆どの人が冷蔵庫を求めていた。一方、カンポンでは電気もなく、家の周囲に植えられている植物や、鶏、山羊、淡水魚などを蛋白源にし、貨幣経済普及の格差はあるが豊かな自然の恵みの中の生活があった。既往症及び現在もっている病にはビタミン不足による口角炎、胃の病気をあげた人が多く、身体に良い食物として自己栽培の葉っぱや根茎をあげていた。